

MASセミナー第7回

「日本の街並はなぜ美しくないのか」
「建築家は街にどのように関われるのか」

巷 巷 巷 巷 巷 巷 巷 巷 巷 巷



建築の現場を覗く！



効率の意味



初めてのおつかいで少女が近所の店先で主婦や高齢者、若い店員と話している光景はコミュニケーションのごく日常の姿だった。標準化、効率化を最優先させた20世紀だったがコミュニケーションというインフラは失われた。都市に於ける躍動感は一面的ではないあらゆるものの個性の発見でありたい。都市＝空間、時間、建築はその為有りたいと思う。血の通った社会から本来の効率が生まれ、建築家もその意味ではまだまだ活用されていない、..

今井 均

「いい環境」の前に 予算の配分がある



港区にある公園にもお金がすぎ込まれています。例えば「森の公園」というのに1000万円余の予算がつき、愛好者たちから「(変なことするなら)何もしないでほしい」という意見が強く出、私も、看板も含めて「自然を大切に、ディズニーランドのようにするな。予算も半分でもいい」と応援演説をしました。公聴会記録づくりだけでなく、街づくりでもっと他に金の使い道があると思ひ、我々の意見が通りやすくする途を探っています。

大倉 富美雄

時代の為政者

『街並み』はそれぞれの国の、それぞれの時代の為政者の権力とパワーの表現です。そのパワーを建築や街並(建築の集合体としての)を形として代弁して表現するのが建築家の役割です。ではいったい現代の為政者とは誰なのでしょう？

さて一口に『街並』と言っても、現代の都市では大きく分けて3つの街並に分けて考えることができます。

- 1, ビジネス地域の『街並』
- 2, 商業地域の『街並』
- 3, 住宅地域の『街並』



があげられます。もちろんそれらがお互いに混ざって存在していることもあります。が、その混在している事実こそが、日本、特に『東京の街並』の大きな特徴なのではないのでしょうか。

小倉 薫雄

街並みのDNA



街並みの美しさを語るとき都市計画、建築基準など法的な秩序付けが現実に大きく関わることは否めません。しかし同時に経済効率優先社会、地域・街への愛着やコミュニティの希薄さ、建物や街並みの何に価値を置くのかという優先順位のとり方などソフトな要因が絡んでいます。街並みの美しさは単に、建物の高さや壁面線を揃えたり電柱や無秩序な看板を規制し建物の外壁や屋根の色を統一することで得られるのでしょうか。そこにはもっと根の深い長い歴史からくる市民文化のDNAがありそうに思います。

鈴木 理巳

区政への参加



文化・歴史・価値観を学び熟成され地域に根付いた建築家は、区議となり建築家としての視点で活躍すべきである。普段からソフト面も含め「街のあり方」を考え、そこに住まう家族と同じ目線で設計をしている割に、「美しい街並みを創る」という活動成果を得るまでにあまりに労力と時間を費やす。効率的に街のことを考える上で、区民に良案を発信できる場、そして区議会で豊富な創造力を提供し実現する場を求めるのが自然ではないか、..

田中 俊行

街の記憶



家が解体される。店舗が閉店する。学校が廃校になる。街をつくる重要な要素がなくなると寂しさが生まれる。思い出が壊されていく感がある。街づくりで大事なことは「作ること」だけではない。「過去の記憶」を未来に繋げながら成長することが大事である。建築家は、歴史・文化・賑わい・環境などから重要な景観要素を発見し建築を評価することができる。保存しながら再生することもできる。街を守る番人でなければならない。

宮田 多津夫

参加のデザイン



すてきな建築や街を創るためには利用者の視点や価値感が加味されたデザインが必要だと思います。この為には、利用者が設計プロセスに参加することが必要と考えています。出来上がったものは、利用者にとって味わいのあるものになり、大切に使う気持ちも生じます。私が5年間過ごしたイギリスでは、一般の方の建築や街に対する意識が高く、日常会話の中で、建築家の話や街の話が出てきます。街づくりに何らかの形で関わっている方も多く、一般の方が街の美観に対する見張り番であり、計画への参画者になっています。歴史や伝統を大切にする中で創造的なものを生み出す寛容性も備えた文化的下地を感じます。参加のデザインが、このような文化を生み出すのではないかと思います。

連 健夫(むらじたけお)